

阪急・国鉄記念切符類概要

1: 文書群番号	100020
2: 文書群名	阪急・国鉄記念切符類
3: 出所	山崎隆三氏
4: 家業・役職等	-
5: 地名	-
6: 行政区分	-
7: 歴史	<p>大阪・神戸間の鉄道開通を目指した明治政府は明治3年（1870）7月、鉄道掛出張所を大阪および神戸に設置して、イギリス人技師の指導のもとに調査・測量を開始した。明治7年5月11日に開業し、大阪・神戸間を一日8往復、1時間10分で走行した。</p> <p>阪急電車の600系車両は、日本初の量産全鋼製車両として大正15年（1926）に登場した。昭和3年（1928）にわが国最初のドアエンジン、一部車両には阪急初の固定クロスシートをそれぞれ装備した。600系車両の導入によって、梅田～上筒井（神戸）間35分を実現している。6300系は、昭和50年に京都線特急車2800系の後継車両として登場した。</p>
8: 伝来	<p>本文書群を収集した山崎隆三氏より史料館が平成12年（2000）11月に寄贈を受け、18年1月に手続を完了した。</p>
9: 史料入手先	山崎隆三氏（史料館専門委員）
10: 点数	15点（目録件数15件）
11: 年代	昭和37年（1962）～昭和50年
12: 構造と内容	<p>本文書群は、国鉄と阪急の記念入場券・記念切符類が中心である。入場券・切符ともに未使用で保存状態も良い。</p>
13: 関連史料	<p>神戸高速鉄道開通阪急電車・山陽電車相互直通運転開始記念切符、阪急電鉄震災復興神戸本線開通記念ラガールカード、JR東西線開業記念入場券セットほか。</p>
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	近藤浩二